

## 櫨の火鉢制作の記録



平成21年春に裏山のケヤキ（板を確保した残りの材料）を、チェーンソーで荒削り。

このあと、ナタ、のみ等を使い形を整える。

※材料のケヤキは伐採後10年以上経過。

屋外に放置してあったので、このまま腐らせるのはもったいないと思い、思案した結果「火鉢を作ることに」



荒削り後に、ノミ等を使い形を大まかに整える。特に側面を行う。腐った部分を完全に削る。



一番の重労働。銅板を埋め込む穴を掘る。

材料は乾燥していると思い込んで穴を掘ると、以外にもみずみずしい。。。。。

しかも、木目の芯が二つもある。二股になっている部分の材料。

芯から割れる恐れがあり、加工の際は

ゆっくりと時間をかけて。

芯が二つの部分は、木目が交錯し非常に硬い。。。。。。。

部位により歪の木目が非常に美しい。

#### 穴掘りに使用した道具

電気ドリル

のみ

グラインダー

チェーンソー



穴掘りとほぼ同時に、火鉢の上面を電気カンナで荒削り。

この時、上面の水平等を考慮して慎重に。

木目を垂直に削るので、出す刃は0.1から0.3mm程度が安全。

最後は、グラインダー→ペーパーの順で磨く。



水分の含有量が多く、木が暴れることが予想される。  
対策として木目の導管をふさいで側面から緩やかに水分が蒸発するように木工用ボンドをしっかりと塗る。

養生期間も暴れるので、仕上げ加工は断念

この状態で、寒くなるまで直射日光等を避け養生する。



仕上げ加工を行って、屋内でさらに養生します。（この間も、材料が暴れます。）





柿の渋を五回程度重ね塗りし、1年ほど寝かした状態。寝かしている間にさらに乾燥が進む。銅の金物が入らないので再度加工。大きさは、銅の金物の直径が30センチ程度。手あぶり火鉢として少し大きめ。

材料切り出しから、3年ほど経過。ようやく本日（平成24年6月16）に炭を入れて運転開始。

火鉢づくりに使用（購入）した材料

木工用ボンド

柿の渋

サンドペーパー（電動用）

サンダーの交換用研磨（＃１００、２４０等）を数枚

銅の桶（これが一番高い、確か８０００円？程度か？）

使用した道具

チェーンソー、ナタ、斧、のみ（４種類）、カンナ（電動及び手動）、ドリル（木工用ドリルを複数）、金槌、木槌

さらに重要なものは、工作する人の時間と体力。

櫛は固くて、重くて